

マネージメント情報 2014年 2月

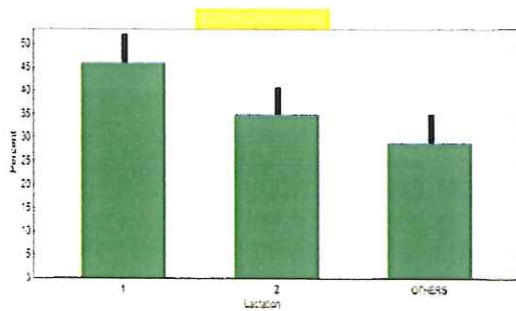
様々な切り口で見る受胎率

乳検データなどからわかる、農場の受胎率は、トータルでの受胎率と初回授精受胎率だけです。しかし、受胎率には様々な切り口があります。DC305でその様々な視点からの受胎率モニターの意義を考えてみましょう。

1) 産次別で見る受胎率

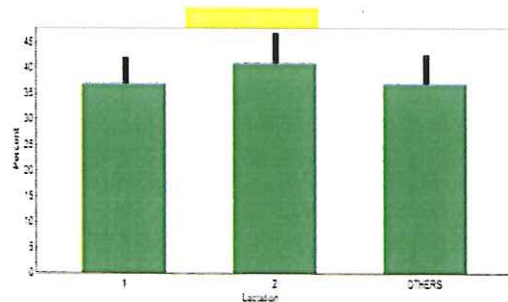
まず、産次別の受胎率を見ることは意義があります。

BY Lactation from 12/21/12 through 12/21/13



A 農場

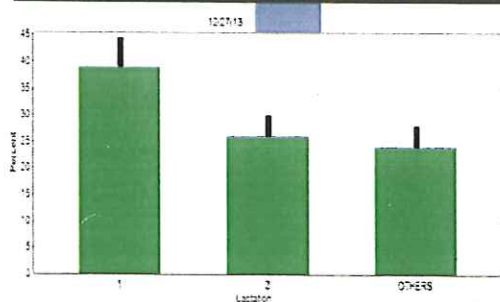
BY Lactation from 12/16/12 through 12/16/13



B 農場

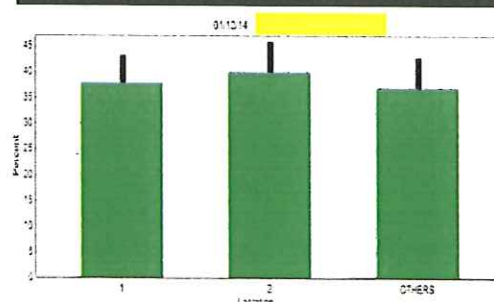
どちらも妊娠率の高い農場ですが、産次別受胎率には、特徴があります。A農場は初産の受胎率が高く産次数が増すにつれて落ちてきています。特に3産以上の牛の管理に関して何か課題があるのではないかと考えられます。一方、B農場はどの産次数も平均的な受胎率を示しています。こういう農場は繁殖に安定感があります。ただ、逆に初産の受胎率はもう少しあげられるところがあるのではないかと感じるところです。

BY Lactation from 11/22/12 through 11/22/13 (産次別受胎率)



C 農場

BY Lactation from 12/ 8/12 through 12/ 8/13 (産次別受胎率)

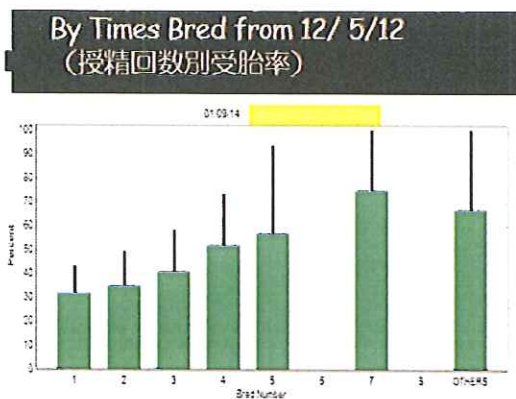


D 農場

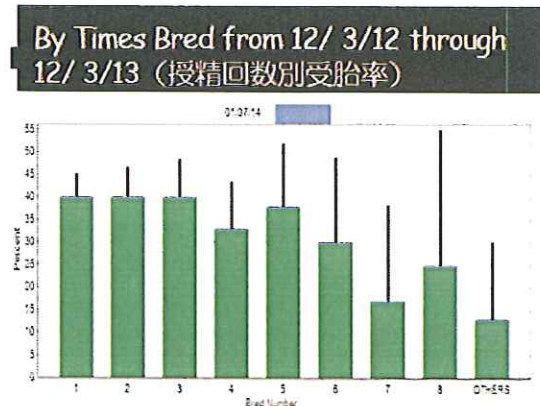
CとD農場も同じ関係ですね。実際の妊娠率でも、D農場のほうが安定した繁殖パフォーマンスを示しています。

2) 初回授精受胎率とその後の受胎率（授精回数別受胎率）

次は授精回数別に受胎率を切り取ってみます。



E

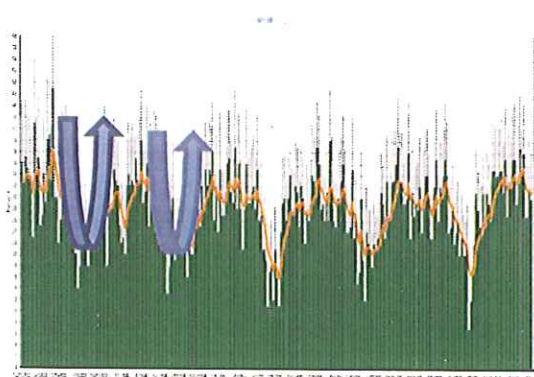


F

E農場のような形の農場では、初回授精開始日も遅れがちですし、もちろん腔胎日数あるいは、分娩間隔も長くなるのは避けられません。特に乾乳：周産期のエサやマネジメントをもっと改善する余地があると思います。一方F農場は最初から安定した受胎率を示していて、実際の妊娠率も高く維持されています。

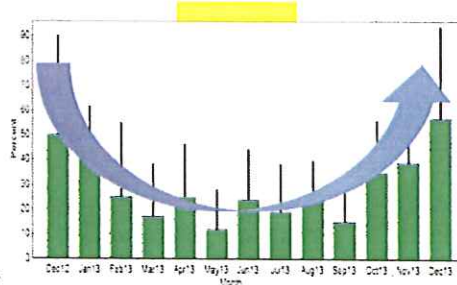
3) カレンダー別受胎率（季節経過による受胎率）

数年あるいは1年を通した受胎率も何かを示唆してくれます。



G

**By Calendar Month from 12/13/12
through 12/13/13**



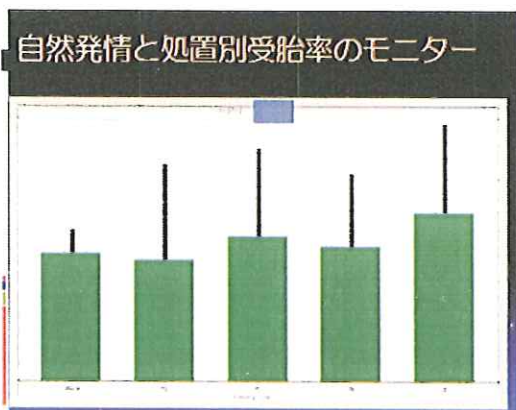
H

Gは5年分の季節による受胎率の変化を見えています。毎年夏に暑熱ストレスによる影響の出ているのがわかります。何か工夫が必要なケースです。これは北海道の例ではありません。H農場の昨年一年間の受胎率の変化を見えています。2-3月ころから下がり始めました。原因がはっきりしないまま、いくつかの飼料の入れ替えによって、再び受

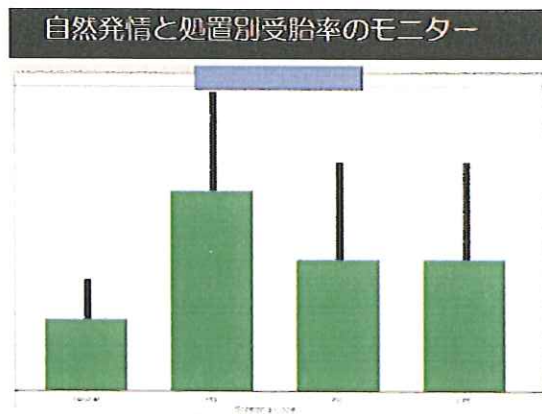
胎率が急上昇しました。最も低下した春から夏は、とても苦労しました。月カレンダーを追った、受胎率のモニター分析は、今と未来に有用です。

4) 治療：処置別受胎率のモニター

自分が行った治療：処置がどのくらいの受胎率であるかどうかをモニターすることは治療した側の責任として大事なことです。私の一つの目安は、その農場の自然発情における受胎率と比較して、それと同等の受胎率を得ているかどうかです。農場によってそもそもの受胎率は異なりますので、農場ごとで処置効果も変わってよいと思っています。およそ正しいタイミングと方法で処置されていれば、その農場の自然発情受胎率と同等以上の効果は出せるはずです。(図I) また、多少の低めもOKと考えています。こうした処置によって今回受胎しなくても、次の周期で受胎しているものも少なくないからです。これも処置の効果の一つと考えてよいとおもいます。残念ながらそのところのモニターができていないので今後できるようにしていきたいと思います。



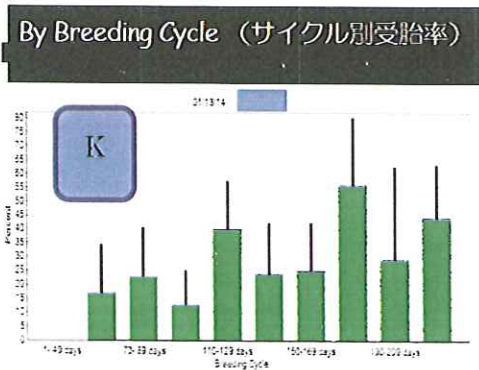
I



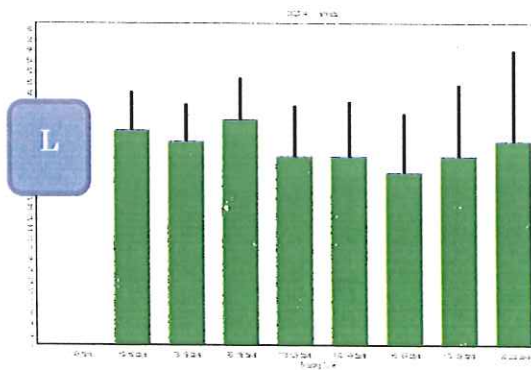
J

また、図Jのように自然発情による受胎率が処置による受胎率より明らかに低いときは、農場での発情発見や授精タイミングに問題がある可能性を示唆していると考えられます。農場の担当者によく話し合う必要がある例です。

5) サイクル別受胎率

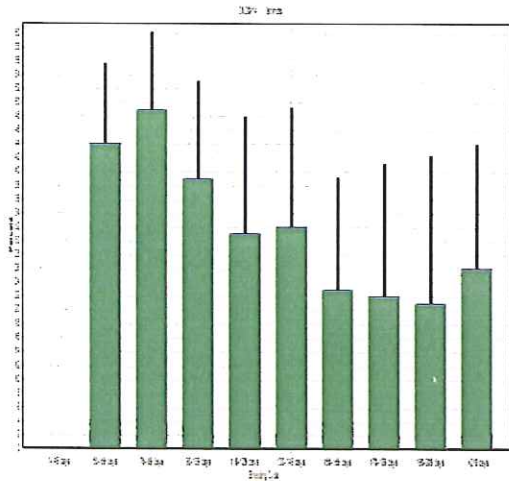


K

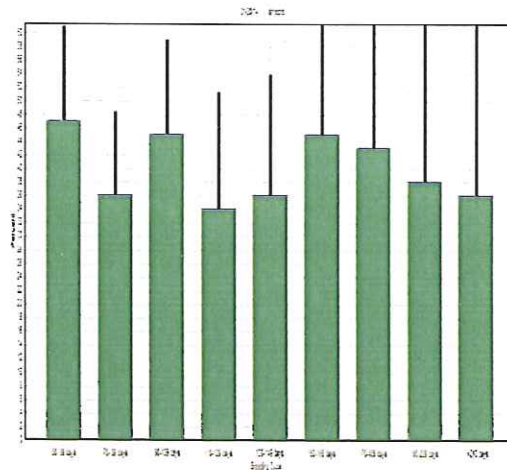


L

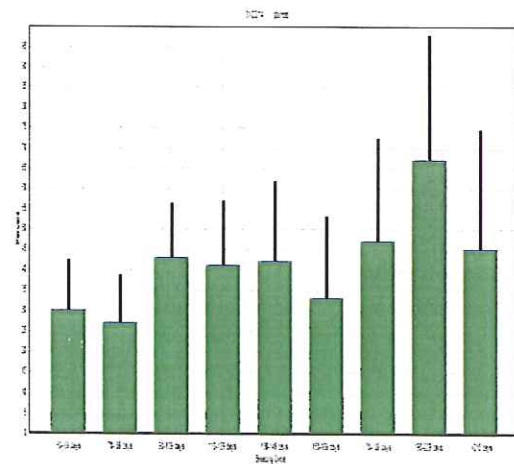
K 牧場は明らかに立ち上がりの悪さを示しています。一方 L 牧場は立ち上がりからよい受胎率を示しています。しかし、こうした受胎率もさらにそれを産次別で見ると別の姿も出てきます。この L 牧場のサイクル別受胎率を初産群、2 産群、3 産以上群としてみましましょう。



L 牧場 初産群



L 牧場 2 産牛群



L 牧場 3 産以上群

L 牧場で妊娠率 23%のなかで、3 産以上群の 90 日以内の受胎率に弱点が残っていることが分かります。今年の課題として浮かび上がりました。

6) 授精師ごとの受胎率

7) 種牛ごとの受胎率

一口に受胎率と言っても様々な側面のあることが分かります。現状の日本における、乳牛検定での一括した受胎率だけではわからない側面を切り取る重要性を示しています。